

●2023.5.28(日) 記録

●発表者

北田健太郎 四條畷学園小学校教諭 (2年生の担任)

●内容

「初めててつがく対話に挑戦した1年間」(6年生)

これまでてつがくなど学んだこともなかった自分がてつがくに興味を持ち、子どもたちとともに取り組んできた1年間の発表です。てつがく対話を取り入れたことで、子どもたちにどのような変化があったのかなどもお話ししたいと思います。

参加者：運営委員 4名、一般14名 合計18名

発表要旨

てつがくを始めたきっかけ

子どもと関わる中で出てきた疑問：「親に言われたから」「友だちがやっているから」という生徒の発言に疑問をもっていた。

そんな時に、岩坂先生(お茶の水女子大附属小学校)と再会(私の小学校時代の担任)。岩坂先生からてつがくに取り組まれているという話をうかがったのがきっかけ。

手探りのてつがく対話

目指す児童像：お互いの考えを尊重し、自分の頭で考えることのできる子どもたち

教員の願い：身近なことに問いをもつ思考力・対話力； 聴く→考える→(話す)

人の考えに興味を持つ。考えの広がりや深まりに気付く、楽しさやおもしろさを感じる

てつがく対話の流れ

ワークシートを配る

- 1 問いに対する、自分の最初の考え
- 2 問いに対する、対話後の自分の考え
- 3 対話に対する振り返り・感想

- ① 最初に問いを立てる
- ② ワークシートの1を書く
- ③ 自分の書いたことにペアでの対話
- ④ サークル対話

ワークシートの2・3を書く

昨年度扱った問い

- ① 何のために勉強をするのか
- ② 人は死んだらどうなるのか
- ③ サークル対話 (①、②を受けてのテーマ)：ルールは必要。BGMを流したらどうか
- ④ 好きとは
- ⑤ なぜ生きているのか
- ⑥ なぜ親の言うことをきかないといけないのか (子どものアンケートから出てきた問い)
- ⑦ およとはどういう存在なのか
- ⑧ 子どもは何才まで子どもなのか
- ⑨ なぜペットを飼っているのか
- ⑩ なぜ好きな人誰?と聞いてくるのか
- ⑪ 南中ソーランはなぜ裸足で踊らないといけないのか
- ⑫ 男女差別はなぜ起こるのか
- ⑬ クラムボンとは何か
- ⑭ 運が良い、悪いは人それぞれ。なぜ違うのか
- ⑮ なぜブラック校則があるのか
- ⑯ ブラック校則とは何か
- ⑰ 正義とは
- ⑱ 誰かを守るために人を傷つけるのは正義か
- ⑲ トロッコ問題

- ⑳ なぜ嘘をついてはいけないのか
- ㉑ てつがくとは
- ㉒ 人に化したものを無くしたら許せるか
- ㉓ どうして大人はいいのに子どもはだめなことがあるのか (日曜参観、保護者にも一緒に入ってもらった。2時間続けて実施)

保護者の感想：

「内容がとても面白いと思った。生徒が自ら考え、そしてその考えを変えることができる人になっていくのを見れて良かった。このような授業を参観し、責任とは何か、又判断できる。判断するとは何か一人一人の意見をきちんと伝えられ、すばらしかったです。危ない遊具を撤去する事は、私自身反対です。説明して危機管理能力を育てて欲しいです。」

「子供たちは、1年間、こういう授業で自分たちの意見を堂々と言い合えていて、すごい

など思いました。マイクを渡された時には、心臓が破裂しそうで震えて、なかなか、自分の意見を言う事ができず、前の人の意見に共感する形でしか発言できませんでした。素敵な時間を過ごせてよかったと思います。」

「それぞれの問いを元にした対話への振り返りの説明が非常に面白いし、色々な発見があった。色々な事に関して考え、意見を交換する事は大切だと思いました。色々な意見を聞くことで考え方も変わるし、言葉が心に残り引き出しが増えていくと思います。いつもそのままをしかたなく受け入れるのではなく、小さな事でも疑問を持って考え続けて欲しいと思いました。素敵な授業を有難うございます。先生の言葉が心に響いているようで嬉しく思っています。」

子どもの変容/教員の変容

子供の変容

考える力がついた

想像する力

様々な視点からものが見えるようになった

「それって本当？」身近なことに疑問を持てるようになった

(教員から見て)

寛容な子供が増えた。友達を待ってあげられる子供が増えた

考えを伝え合う子供が増えた

姿勢・表情の変化。友達の話聞く態度などが前向きになっていった

教師の発言量が減少している(6月の研究授業での教師の発言量は半分以上だったが、11月の研究授業ではほとんど教師は話さなくなっている)のは、子どもが議論を自分たちで差配できるようになったきた。

教員の変容

待つ意識

一人ひとりのことをよく知ることが出来た(気がする)

1年間の振り返り

教員の願いが子ども達に届いた!?

てつがく対話はおもしろい!

子ども自身が、「てつがくは、みんなの意見をきいて、自分の中で、何回も考えなおして、自分の考えを決めるもの」と書いてきた」

「私は、てつがくして良かったと思っています。・・・てつがくって自分の視野を広げるこ

とだし。てつがくして、いろいろな視点から物事を見るいいきかいになったし、実際に自分の意見が変わったこともあったから、やって良かったと思います。やっぱり、一人ひとり違うから、いろんな意見が出て、吸収して、学んで面白かったです。」

セーフティの確保

クラスの空気感

「超久しぶりにサークル対話したけど、やはりこれをするクラスが安全だということが分り、ホッとする」

課題

テーマあるいは問い：テーマの難しさ。簡単なものからやって欲しい

ファシリテーション：対話の進め方を考える子がいた

コミュニティボールの扱い：ボールはいいけど、ボールがないとしゃべれなくなった

今年度の取り組み

2年生の担任なので、先ずサークル対話をする

内容は、やさしいもの

大事にしていることは聴くこと

コミュニティボールの扱い（ボールを回すこと自体に時間がかかる）

道徳としてカリキュラム化できないか（これまでは、学級会や国語の時間にしていた）

2年生の振り返り

「みんなのはなしをきいてあたまのせかいがっこひろがったとおもいます。」

Q&A、コメント

C：先生が子どもたちの姿から学ばれていること、学校全体で取り組まれているのがすごいなと思いました。6年生の子供たちの成長から想像すると、今年の2年生がどうなっていくのが楽しみで、又お話をお聞きしたい。

C：子どもたちの変化が非常によく分かって、私がうれしかった。子どもたちの集団作りや、教室がセーフティであることなど、子どもがすごく変わっていているのを見て取れる。

Q：問いに関して、活発であったもの、難しかったのが何だったか、具体的に教えていただきたい。

A：盛り上がらなかったのは「好きとは何か」です。まだ対話に慣れていなかったことも理由に挙げられるかもしてません。「好き」の内容が皆で似ているところがあり、やっぱりそうやったか、という感じで終わってしまった。あとは、「死んだらどうなる」という

問いは、結局空想になったしまい、子ども達も話しながら、疑問に感じていた。盛り上がったのは、自分の生活や体験に身近に感じられる問い、例えば「南中ソーラン」の問いなど。

C：盛り上がらなかった問いが、それ自体としてよくなかったのかどうかという点を考えてみる必要があるのではないか。

Q：問作りから対話まで、一コマですという流れでしょうか。

A：最初は、疑問に思うこととかみんなと話し合いたいこととかを紙に書いてもらう。それを集めて、そこから問いを選んで、前の日の終礼の時間などを使って、問いを決めていた。みんなで話し合いをして問いを決めるのには、時間がかかるし、難しいと思っていた。しかし、途中から、道徳の時間で、明日の道徳の時間はこんなんだけど、何か疑問に思うことはない？と質問して、実際の道徳の時間に昨日聴いてことについてどう？と聞くと、何人かが挙手して、問いを出してくれるので、その中から皆で選ぶ問い形で実施していたので、全てを一コマでやってはいなかった。

A（同僚の先生）：一コマ内で問作りもするのは難しいので、今年度は、子ども達が日常で疑問に感じたことを紙に書いて入れてもらう箱を用意している。箱から取り出した問いの中からどれにするかを皆で決める。

Q：今後のてつがく対話の活動について考えていることがあれば、お聞きしたい。

A：一番は、道徳の中でどのように取り入れていくかということです。道徳は教科なので、その評価をどうするか、特に2年生でそれができるのか、考えています。また、去年は学級会の時間で実施していたので、そうすると、子どもの中ではてつがく対話の時間はすごくしゃべるが、普段の授業ではそこまで発言が出ないといったように、結びつきが無くなっていると感じていたので、今年は教科の中に哲学対話を入れていきたいと思っている。

Q：道徳の教科書をどう取り扱っているか。

A：教科書を皆で読んで、読んだ後に、教科書読んだ上で、何か疑問に思ったこと〔はてな〕を、みんなで出して、そこから対話に入っていく。

C：教科書を読んだ後、取りあえず、コミュニティボールを回してみる。問いをいきなり作ろうとやると、子どもが構えてしまう可能性がある。つまり、読んでみてどうだったと聞いてみる。そのうちに、問いを言い出す。そうなった時に、それを横に立てかけた模造紙（めくっていける）に書いていく。その中から問いを出した子に聴いていく。このような過程で問いを出す練習をしていく。価値の内容項目も子どもが出した問いの内に出てくる。

C：教師が教えるというのではなく、子ども同士が話し合いながら、作り上げていく経験、学びが大切だと感じた。ただそのとき意識しているのは、知的な深まりということですが、この両者の関係性に関してはどう考えたらいいか、悩んでいます。

C：知的な深まりという場合、二つのケースが考えられると思う。一つは論理的な能力の展開が深まっていくこと、もう一つは内容の理解が深まっていくことです。これら二つの

理解の深まりを先生が的確に把握しておかないと理解の深まりを先生自身が捉えられない。そのためには、先生も論理学の知識や哲学の歴史を知っておく必要があると思う。前者に関しては、子どもの多様な発言にも共通点があり、論理的な展開があるということを先生が自覚して、それを発展させるプロセスを大事にする。後者に関しては、例えば、正義論などに関して、子どもの様々な意見の中には、カント的な正義を主張する子もいれば、功利主義的な主張をする子もいる（今日の発表でも、死ぬ人数が少ない方の行為を取るといふ発言を子どもはしている）。それを的確に把握して、議論を深める必要がある。